

## 高見のっぽさん

[俳優・作家・歌手] 高見のっぽさん公式HP▶<http://www.noppo.jp>

NHK「できるかな」の「ノッポさん」が、「NHKみんなのうた」の「グラスホッパー物語」(2005年)で、初の歌声を披露したことは記憶に新しい。児童文学作家としても活動する高見さんが今、子どもたちに伝えたいこととは？



## 「小さい人」に敬意を表する

初対面なら、相手が5歳だとしても、「恐れ入りますが、あなたのお名前はなんとおっしゃいますか？」と、丁寧な言葉遣いで接します。こちらが心から敬意を表しているのはわかりますから、「小さい人」たちは、必死になって応えますよ。「子ども」ではなく「小さい人」と呼ぶのは、「大きい人」との違いは物理的なもので、中身は同じだと考えるからです。物事の本質を理解する賢さは、5歳と50歳で変わらない。むしろ、「小さい人」のほうが感覚は鋭いかもしれない。私には幼児期の記憶が鮮明に残っていて、自分を屈辱的に子ども扱った大人のようにはなりたくないから、小さい人には自然と礼儀をつくします。テレビ番組でも、絵本の仕事でも、「小さい人」向けだからといって、思想や趣味に反したことは一切やりません。自分がいいと思ったものを、真剣に提出する。嘘なら、すぐに見破られますから。私の方針は、小さい人間をあなどって甘やかすのとは大違いです。3~4歳までは、基本的なしつけをきちんとする。私は母に4つのことだけ、厳しく言われました。「盗んじゃいけません、人を傷つけちゃいけません、みんなのいるところでは騒いじゃいけません、先生の言うことはよく聞きなさい」。それだけ守ったら、後は無茶苦茶に遊んでいた。付随して、挨拶の仕方なども厳しくやられまし

た。また父はといえば、電車の中で席が空いているのに、私を膝の間にはさんで、「あなたは強い人だから立っていきましょう」と言っていたのを、よく覚えています。今は怒っちゃいけないなんてことになってきていますが、6~7歳になってから急に、「だめよ」って言ったって遅いんです。3~4歳までの訓練があれば、5歳くらいで一人前です。5歳以降は、まだ小さくて知識のないことがあれば、手間はかかっても「説明」をしないとけません。

## 「グラスホッパー物語」に込めた想い

「NHKみんなのうた」の「グラスホッパー物語」(短編ミュージカル映画仕立て)の詞には、「若いときは失敗を恐れずに跳べ」というメッセージを込めています。私自身、「ノッポさん」のイメージを壊すのが怖くて、いろいろな挑戦を避けていた時期がありました。40歳くらいで、2年ほど悩んだあげくに、ふっと吹っ切れた。たかがしれている自分を飾っても仕方がないし、一生懸命やった結果を簡単に笑う人は相手にしなくていい。本当に賢い人はちゃんと見てくれているから、その人たちさえわかればいいと気が付いたんです。そういう人は周りにはいるはずですから、探す必要はありません。

## 親や先生は「覚悟」を持って

今、恐ろしい事件がどんどん現実起きてきています。そんな中で本当に小さい人たちが心配なら、大きい人間は、覚悟

を持たないといけない。いじめだって、大人の世界のほうにも存在するんですから、それをまず考えないとけません。「モンスター親」が話題になっているそうですね。文句があるなら、匿名や電話では話になりません。子ども、親、先生の三者が顔を合わせたところで、それぞれに責任を持って話し合いをするしか、解決のしようがないでしょう。先生は先生で、大同団結しなければなりません。

## 仲間で生きる生き物

さて、私はもう年です。これからの時代、私には測り知れない新しい価値観の世の中ができるのかもしれない。そして、それがいいのかどうか、本当はわかりません。しかし、人間はどうやらみんなと一緒に生きなきゃならない生き物なのに、そうじゃなくなっていく感じがしているのです。「NHKみんなのうた」の「ハイ! グラスホッパー」では、「土くれも、石ころだって同じ」だと、歌っています。つまり人間は、地球の一部でしかないということ。今のうちに、欲望のまま地球の環境を壊してしまっているほど、人間はたいした存在なのではないでしょうか？



## 高見のっぽ(たかみのっぽ) | プロフィール

1934年、京都府太秦生まれ。67~90年、NHK「なにしてあそぼう」「できるかな」でしゃべらないノッポさんを演じる。一方、テレビや舞台の脚本・演出等で活躍、「高見映」名義の著書も多数ある。「NHKみんなのうた」の「グラスホッパー物語」(05年)と第2弾「ハイ! グラスホッパー」(07年)では歌とダンスで出演、脚本・作詞・振付・総合演出も手がけた。第58回日本放送協会放送文化賞受賞。

インタビュー | ミラウ・ミコフ

「土くれも、石ころだって、仲間」。  
人間はどうやら、みんなと一緒に  
生きなきゃならない生き物のようです。